

2017年度
決算補足資料

2018年5月11日

DOWAホールディングス株式会社

損益の状況

■ 連結損益計算書

単位：億円

	2016年度 実績			2017年度 実績			比較増減					
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期		下期		通期	
売上高	1,847	2,257	4,105	2,193	2,354	4,547	345	19%	97	4%	442	11%
営業利益	133	206	339	146	162	309	13	10%	△ 43	△ 21%	△ 30	△ 9%
経常利益	135	229	365	172	190	363	36	27%	△ 38	△ 17%	△ 1	△ 0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	98	162	261	117	129	246	18	19%	△ 33	△ 20%	△ 14	△ 6%

- ✓ 金属価格の上昇により売上高が増加した一方、減価償却費の増加や製錬原料の購入条件悪化、廃棄物処理量の減少などにより、営業利益は減益となった。
- ✓ 経常利益は持分法損益の増加により、ほぼ前年度並みとなった。

為替相場、金属価格

	2016年度 平均			2017年度 平均		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
為替：(¥/\$)	105.3	111.5	108.4	111.1	110.6	110.9
銅：(\$/t)	4,752	5,557	5,154	6,005	6,884	6,444
亜鉛：(\$/t)	2,084	2,650	2,367	2,780	3,328	3,054
インジウム：(\$/kg)	222	192	207	184	269	226

事業環境

➤ 廃棄物処理関連

国内：廃棄物発生量は横ばい、東北地区の処理案件減少、
一部の廃棄物処理施設で稼働低下

東南アジア：廃棄物処理の受注が伸長するも、高収益案件が一時的に停滞

➤ 自動車関連

国内・海外ともに自動車生産台数は堅調に推移

➤ 新エネルギー・電子部品関連

新エネルギー：北米、アジアを中心に市場拡大が継続

電子部品：東アジアを中心にスマートフォン向け需要が伸長

➤ 金属価格・為替相場

金属価格：亜鉛や銅などの金属価格は上昇

為替相場：第3四半期までは概ね1ドル110円台で推移、その後円高が進行

主要製品の動向

※2016年度1Qを100として指数化

		2016年度				2017年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
環境・リサイクル	国内廃棄物中間処理量	100	104	109	102	106	96	101	91
	リサイクル原料集荷量 (小坂)	100	108	111	91	96	92	99	99
	東南アジア廃棄物処理額	100	103	111	129	128	112	111	119
製錬	銅生産量 (小坂・小名浜)	100	86	83	89	85	70	60	73
	亜鉛生産量 (秋田)	100	72	91	99	92	73	103	92
電子材料	LED販売量	100	88	82	86	79	85	96	87
	銀粉販売量	100	101	97	95	89	105	104	73
金属加工	伸銅品販売量	100	104	106	104	105	101	111	107
熱処理	熱処理加工売上高	100	103	118	116	112	118	127	127
	工業炉売上高	100	116	109	183	104	148	119	201

セグメント別の損益 前年比

単位：億円

	2016年度 実績			2017年度 実績			比較増減			営業利益の主な増減内容
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	
環境・リサイクル	969	66	68	993	49	57	24	△ 16	△ 10	・廃棄物処理数量の減少 ・土壌処理案件の減少
製錬	2,077	100	122	2,179	92	130	101	△ 8	7	・製錬原料の購入条件の悪化 ・減価償却費の増加
電子材料	625	65	68	777	56	61	152	△ 9	△ 7	・スマートフォン向けLEDの需要回復 ・減価償却費、研究開発費の増加
金属加工	754	69	71	906	72	75	151	3	4	・伸銅品は、自動車向け、スマートフォン向けともに需要堅調 ・産業機械向け回路基板の増販
熱処理	251	23	22	282	26	25	30	2	2	・熱処理加工・工業炉ともに、国内外で受注増加
その他、 全社・消去	△ 574	13	11	△ 591	12	13	△ 17	△ 1	2	
計	4,105	339	365	4,547	309	363	442	△ 30	△ 1	

経常利益の要因別分析

単位：億円

2017年度累計 - 2016年度累計	環境・ リサイクル	製錬	電子材料	金属加工	熱処理	その他	合計
施策効果・販売増減など	△ 19	△ 11	△ 8	7	4	△ 1	△ 28
うち実収差量（数量差）	-	(△ 15)	-	-	-	-	(△ 15)
実収差量（金属価格単価差）	-	36	-	-	-	-	36
外貨建収入為替差	-	8	2	-	-	-	10
原料購入条件（条件差）	-	△ 16	-	-	-	-	△ 16
払出時価簿価差・期末時価評価差	-	△ 11	-	-	-	-	△ 11
電力代ほか	-	△ 7	-	-	-	-	△ 7
減価償却費（製造原価）	3	△ 7	△ 3	△ 4	△ 1	△ 0	△ 13
営業利益増減	△ 16	△ 8	△ 9	3	2	△ 1	△ 30
営業外収支の影響							
・持分法損益	△ 0	13	1	0	-	3	16
・その他	6	3	1	1	1	1	11
経常利益増減	△ 10	7	△ 7	4	2	2	△ 1

財務の状況 ①

■ 連結貸借対照表

単位：億円

	2017年 3月末	2018年 3月末	比較増減		2017年 3月末	2018年 3月末	比較増減
流動資産	1,948	2,322	374	流動負債	1,211	1,429	218
				固定負債	556	671	114
固定資産	2,097	2,255	157	自己資本	2,193	2,388	195
				非支配株主持分	85	89	4
総資産	4,046	4,578	532	負債・純資産計	4,046	4,578	532
				有利子負債	799	1,098	299
				自己資本比率 (%)	54.2	52.2	△ 2.0
				ROA (%)	9.5	8.4	△ 1.1

- ✓ 金属価格上昇による製錬の棚卸資産の増加、売上増による売上債権の増加、成長投資による固定資産の増加などにより、総資産額は前期末比で532億円増加。

財務の状況 ②

■ 連結キャッシュフロー

単位：億円

	2016年度	2017年度	比較増減
営業キャッシュフロー	293	111	△ 182
税金等調整前当期純利益	367	349	△ 17
減価償却費等	162	177	14
法人税等	△ 59	△ 124	△ 64
棚卸資産	△ 127	△ 239	△ 112
その他	△ 49	△ 51	△ 2
投資キャッシュフロー	△ 259	△ 340	△ 80
設備投資	△ 259	△ 240	19
その他投資	0	△ 100	△ 99
財務キャッシュフロー	△ 71	240	312
キャッシュフロー計	△ 37	12	49

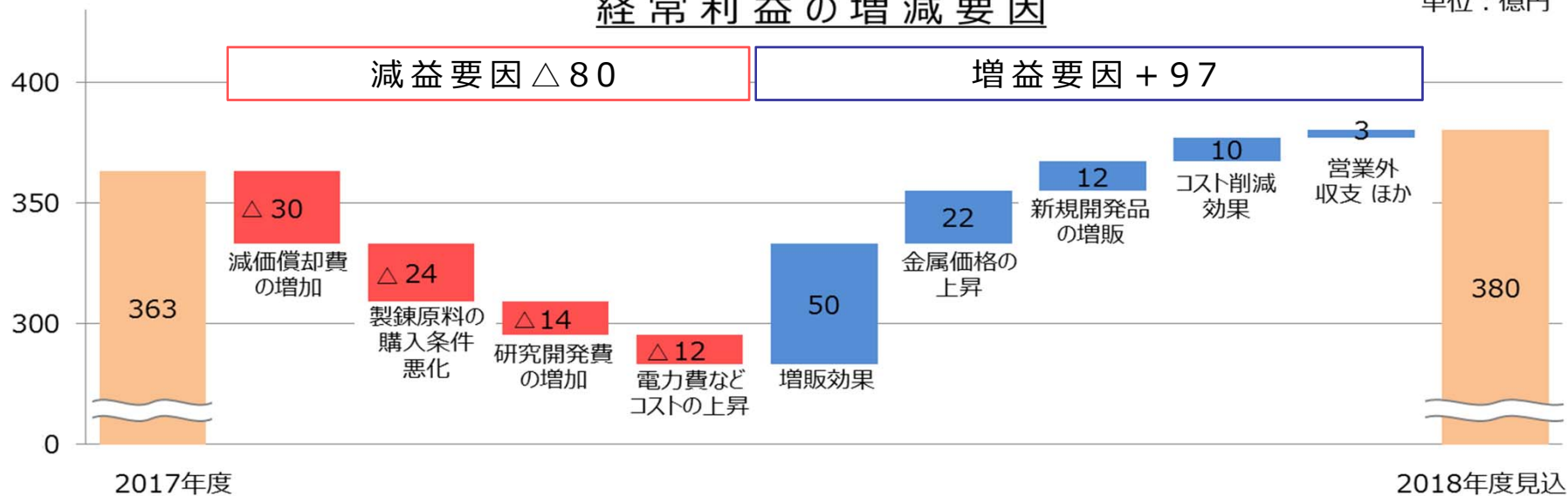
2018年度 連結業績の見通し

単位：億円

	2017年度 実績	2018年度 見込	比較増減
売上高	4,547	4,750	202
営業利益	309	320	10
経常利益	363	380	16
親会社株主に帰属する 当期純利益	246	265	18

経常利益の増減要因

単位：億円



- ✓ 成長投資による減価償却費の増加や製錬原料の購入条件悪化などはあるものの、主力製品の増販や金属価格の上昇などにより、前期比増益を計画する。

セグメント別の損益 前年比

単位：億円

	2017年度 実績			2018年度 見込			比較増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環境・ リサイクル	993	49	57	1,093	65	67	99	15	9
製錬	2,179	92	130	2,270	96	138	90	3	7
電子材料	777	56	61	733	40	57	△ 44	△ 16	△ 4
金属加工	906	72	75	955	76	77	48	3	1
熱処理	282	26	25	307	33	32	24	6	6
その他、全社・消去	△ 591	12	13	△ 608	10	9	△ 16	△ 2	△ 4
計	4,547	309	363	4,750	320	380	202	10	16

前提条件・感応度（2018年度）

感応度（営業利益/年）

単位：億円

	前提条件	変動幅	感応度
為替	110.0 円/\$	±1 円/\$	4.4
銅	7,000 \$/t	±100 \$/t	0.5
亜鉛	3,200 \$/t	±100 \$/t	4.0
インジウム	350 \$/kg	±10 \$/kg	0.5

※為替感応度の内訳は、製錬部門3.5億円、電子材料部門0.9億円です。

為替、金属価格比較

	2017年度 平均		2018年度 見込		(参考) 直近
	上期	通期	上期	通期	4月平均
為替：(¥/\$)	111.1	110.9	110.0	110.0	107.4
銅：(\$/t)	6,005	6,444	7,000	7,000	6,839
亜鉛：(\$/t)	2,780	3,054	3,200	3,200	3,191
インジウム：(\$/kg)	184	226	350	350	336

感応度については、現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の影響額は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

投資の状況

単位：億円

	2015年度 実績			2016年度 実績			2017年度 実績			2018年度 見込		
	設備投資 投融資	研究開発 投資	合計	設備投資 投融資	研究開発 投資	合計	設備投資 投融資	研究開発 投資	合計	設備投資 投融資	研究開発 投資	合計
環境・リサイクル	91	3	94	57	3	60	82	4	86	80	4	84
製 錬	59	45	104	90	20	111	123	12	136	270	12	282
電 子 材 料	38	29	68	37	32	70	46	34	81	30	45	75
金 属 加 工	28	5	34	40	5	45	36	5	42	60	7	67
熱 処 理	30	4	35	53	4	57	49	3	53	50	3	53
全社、その他	7	△ 1	5	24	0	23	8	0	9	10	0	10
合計	256	86	343	302	66	369	348	61	409	500	73	573

(参考) 減価償却費

※1

	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 見込
環境・リサイクル	47	45	43	58
製 錬	29	38	46	42
電 子 材 料	24	23	27	32
金 属 加 工	20	20	24	30
熱 処 理	20	19	20	25
全社、その他	9	9	10	12
合計	151	157	172	202

※2

・2018年度の主な案件

環境・リサイクル：低濃度PCB処理増強、東南アジア事業拡大

製錬：ロス・ガトス鉱山の建設

電子材料：製造設備の増強（銀粉、LED）

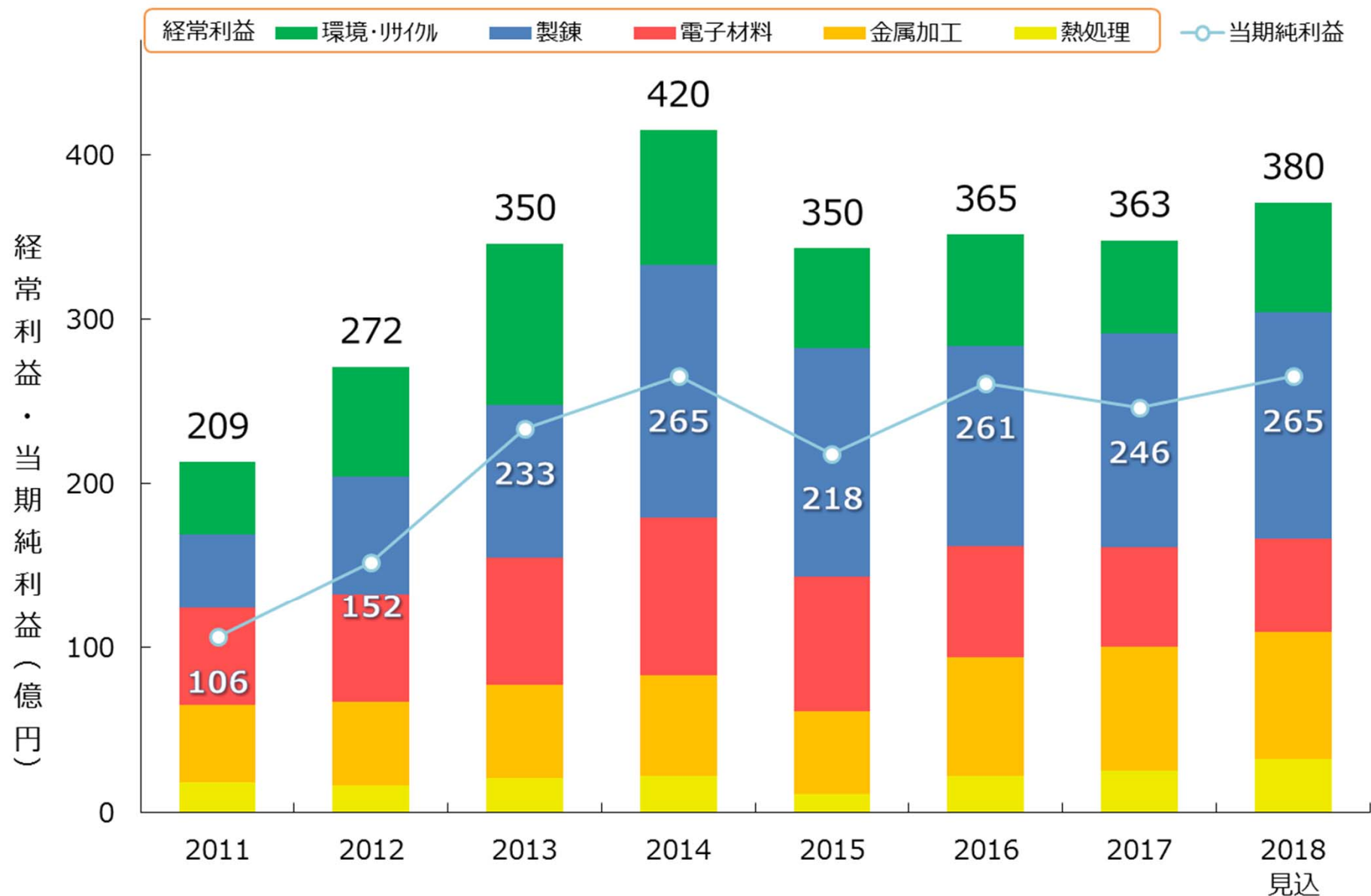
金属加工：伸銅品製造設備の増強

熱処理：熱処理加工設備の増強（日本・インド・北米）

※1：製錬の研究開発投資は、鉱山開発投資を含みます

※2：2018年度見込は、新規連結会社の減価償却費を含みます

經常利益・当期純利益の推移



DOWA

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。